

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
1	火災	31	1	9	大阪府	なし	試験センターの試験用排気設備内で火災が発生。ドラフトチャンバー、排煙用塩ビ製ダクト1本焼損した。
2	漏えい	31	1	9	神奈川県	なし	製油所の屋外タンク貯蔵所(許可容量:1万9,645キロリットル)において、C重油が防油堤内に約1キロリットル流出。配管(屋外タンク貯蔵所#119の付属配管(12B))のピンホールから漏洩は継続中でありオイルパンにて回収中。漏洩配管は縁切り済みであり、配管内に300~500リットルの滞油がある模様。
3	漏えい	31	1	10	神奈川県	なし	係留された船舶への軽油出荷作業中、船舶のベントから軽油約150リットル船上に漏洩したもの。海上への漏洩はなし。
4	火災	31	1	11	神奈川県	なし	エチレン製造装置加熱分解炉の配管からガスが漏れ発火したもの。圧力配管及び圧力配管に巻かれた保温材及びナフサが若干焼損。翌1月12日、1:25鎮火。
5	火災	31	1	12	福岡県	なし	冷却不十分な高温のコークスが誤って振り分け機にかけられたため、小さく割れた高温コークスがベルトコンベアに接触、出火した。
6	火災	31	1	12	千葉県	なし	モーター付近から煙が発生したもの。消火器により消火済み。
7	火災	31	1	15	千葉県	調査中	海綿鉄工場においてトンネル炉内ピットで火災が発生しているもの。鎮火に向けて縮小中。
8	漏えい	31	1	16	兵庫県	なし	岸壁の棧橋から、東側へ約50mの範囲に油様の液体が漂流(漂流範囲は棧橋西側約30m、東側約50m、南北約50m)。付近海域にて漏えい箇所を検索したが、特定できず。
9	漏えい	31	1	18	茨城県	なし	原油貯蔵タンクよ油スロップ油(水含む)が漏洩したもの。詳細は調査中。漏洩箇所は、吐出配管。漏洩箇所周辺の配管ブロック済。
10	漏えい	31	1	18	千葉県	なし	水添脱硫装置の熱交換器の安全弁2次側配管付近から硫化水素を含む可燃性ガスが漏洩したもの。
11	火災	31	1	18	神奈川県	なし	工場3階で溶断作業中に発生した火花が、1階に置いてあった板ガラスの緩衝材(紙)におちて燃えたもの。従業員により消化済み。
12	漏えい	31	1	19	北海道	なし	タンクの配管エルボに亀裂様の開口が発生し、ナフサ約9キロリットルが漏えい(防油堤内)。19時52分 漏えい停止。公設消防の出動有り。
13	漏えい	31	1	20	千葉県	なし	屋外タンク付近の配管溶接線からナフサが漏洩したもの。配管ブロック、配管内水置換により漏洩停止。
14	漏えい	31	1	21	千葉県	なし	塩化ビニルモノマー製造施設にある蒸留塔2基が何らかの理由により内部の圧力が異常に上昇したため、圧力を自動的に低下させるための安全弁が開き、塩化水素を含んだ塩化ビニルモノマーが放出された。放出は10分程度続いた後、圧力が低下したため、自動的に安全弁が閉じた。 1月21日 近隣事業所Aの作業員10名がのどの痛み、咳の症状を訴えた。病院での診断結果は、急性ガス中毒で2日間の経過観察。就業制限や投薬治療の指示はなかった。 1月22日 近隣事業所Bの作業員2名は、吐き気、目の痛みを訴えた。病院での診断結果は、2日間の経過観察。いずれも入院せず帰宅。
15	火災	31	1	22	神奈川県	なし	製油所400号敷地内の枯草が5平方メートル消失。
16	火災	31	1	23	茨城県	なし	鹿島工場西地区エピオン製造施設において配管切断中、溶断の火花が配管保温材に引火したもの。(解体工事中の火災) 1月23日10:23鎮火。
17	火災	31	1	23	愛知県	なし	製鉄所構内のプラスチックリサイクル工場の屋外に保管してあった圧縮廃プラスチックから出火したもの。建物への延焼なし。負傷者等なし。20:19鎮圧。
18	火災	31	1	24	愛媛県	なし	排水タンクの設置工事に伴い、資機材仮置き場(屋外)に置いていた耐酸モルタル原料の入ったペール缶や一斗缶、塗装工具類が焼損。
19	漏えい	31	1	25	岡山県	軽症2名	塩酸出荷準備のため、塩酸タンク送りポンプを稼働させたところ、配管が破損し、塩酸が漏えいした(漏えい量は調査中)その際に、作業員2名が塩酸を被液し負傷。漏えいは9:14に停止し、場外への流出はなし。
20	漏えい	31	1	25	神奈川県	なし	同製油所400号敷地内の212(ナフサ収容)タンク配管のブリーダーバルブから、タンク洗浄中の軽油が防油堤内に約2キロリットル漏洩したもの。防油堤内に漏洩した軽油及び配管を縁切りし、配管内の残油併せて約5キロリットルをバキューム車で回収。
21	火災	31	1	28	広島県	なし	定修中であるアクリルゴム工場において、排水ラインを変更するため、3階床面排水口から2階へ繋がる配管の一部(2階天井付近)を切断し、その切断部分にフランジを取り付けるため、配管とフランジを溶接した際に、配管内に残存していた粉状の物質である樹脂粉(ラテックス)に溶接火花が着火し出火したもの。既に鎮火済みであり、場外への影響はなし。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
22	漏えい	31	1	28	福島県	なし	火力発電所職員が地上側溝に油脂類が流出しているのを確認し、消防本部に通報。調査の結果、発電所に設置してある指定屋外タンク貯蔵所(5万kl)の浮屋根に油脂類が滲み出て、浮屋根の排水用配水管から、防油堤内の地上の側溝に流れ出たものと判明。側溝に流れ出た量は約30m×30cm×1cm程度。調査の結果、漏えいた油脂は重油であることが判明。(重油の漏えいは止まり、13時57分に回収を完了した。)
23	火災	31	1	29	広島県	なし	重油、石炭、タイヤチップを燃焼させ蒸気を生じさせるボイラー設備の屋外集積場において、ホイローダー後部エンジン部より出火しホイローダーは全焼し鎮火。ホイローダーの火が屋外集積場のタイヤチップに燃え広がった。屋外集積場の鎮火については、手掘り作業と温度監視を並行し、残火処理を実施中。
24	漏えい	31	1	30	神奈川県	なし	シーバースから屋外タンク貯蔵所へ揚げ荷する準備中、移送取扱所(扇島東シーバース、許可容量432,000KL)の危険物配管から原油が少量漏れたもの。事業所従業員により、漏洩個所のブロック作業を実施済。1月30日13:22漏洩停止処置完了。1月30日21:00配管内に滞油している原油を、水押により他のタンクへの移送完了。当該配管に緊急使用制限命令を発令した。
25	火災	31	1	30	千葉県	なし	工場において、スラブ表面を研磨、製整するNo.6グラインダー設備の近傍にある電気ケーブルが焼損したもの。消火器6本により消火。同日7:43に鎮火確認。
26	火災	31	1	30	千葉県	なし	合金を地上部のバンカーから切り出し地下へ送り、ベルトコンベアで第2製鋼工場へ搬送する施設の地下1階部分に敷設されている電気ケーブル(並走10本)の一部区間、約2mを焼損した火災。同日7:34鎮火確認。
27	火災	31	1	30	茨城県	なし	製鐵所構内のガス化溶解炉のベルトコンベアが延焼。1月30日23:09鎮圧。1月31日0:16鎮火確認。
28	火災	31	2	1	神奈川県	なし	配管洗浄中にアルコールが何かと反応し引火。
29	火災	31	2	3	愛知県	なし	油圧ショベルの車両下部から出火し、油圧ショベルを焼損。
30	漏えい	31	2	4	神奈川県	なし	ラック上の6インチ配管から危険物、重油が漏洩したもの。扇島西シーバース(KS-W、許可容量:120,000KL)への出荷配管のピンホール部から漏洩しているもの(陸上部)。ポンプを停止し、縁切りを行う。海上への漏洩はなし。約10m×30mの範囲に漏洩している。バンド巻を実施し、漏洩は停止した。配管内の油を窒素によりバージする予定。2月4日11:54処置完了。
31	漏えい	31	2	4	茨城県	なし	製油所原油タンク地区の屋外タンク貯蔵所付近の配管から原油が流出。漏洩個所へのバンド掛け2月5日10:57完了。配管滞油払出作業済中。2月5日13:54消防隊による漏洩停止確認。2月5日14:15処理完了。漏洩物回収は、油のみ60リットル。油混じり土砂900リットル。
32	漏えい	31	2	5	愛知県	なし	プラントの配管に2mmの穴が開き、配管内のポリプロピレングリコール(第4石油類)が10~20リットル漏えいたもの。バルブを閉じ、漏えい停止後にウエスで拭き取り回収中。
33	火災	31	2	6	愛知県	なし	設備(なにの設備か不明)から出火したが、消防に入電時(13:25)には鎮火していた。
34	その他	31	2	7	兵庫県	なし	反応釜のモーターの潤滑油がジャケット内に漏れ、酸化反応による微熱で少量の白煙があがった。9:50現在白煙は止まっている。
35	漏えい	31	2	8	岡山県	なし	接着剤等の原料となる、水溶性樹脂を製造する施設に付属している原料一時保管タンクからメタノール(約120l)が漏洩した。(漏えいは23:16停止)当該タンクは定期検査を行うために空の状態、タンク内をメタノールで洗浄していた最中に、タンクの通気管からオーバーフローし漏えいに至った。場外への流出はなし。
36	漏えい	31	2	10	神奈川県	なし	施設敷地内の路上に、原油と水の混合物36リットル(原油量13リットル)が漏れ出したもの。同日23:30消防の処理完了。
37	漏えい	31	2	10	千葉県	なし	有機溶媒系のタンクヤードのフランジから、ゼリー状の溶剤が漏洩したもの。同日13:25漏洩停止。
38	火災	31	2	10	千葉県	なし	No.3変電所内のケーブルが黒焼したもの。炭酸ガス消火設備により消火。
39	漏えい	31	2	13	神奈川県	なし	屋外タンク(軽油400Lタンク)の底板ドレンバルブが脱落し、軽油(漏洩量にあっては詳細調査中)が流出したもの。原因は腐食によるものと推定。漏洩は防油堤内に留まっており、屋外タンクが空であり漏洩が停止していることを管轄消防署員が現場確認済。なお、回収の対応にあたっては、240Lはドラム缶にて回収し、防油堤内のものについては乾燥砂等で回収した。
40	出火	31	2	14	神奈川県	なし	変圧器内部の水分を飛ばすため、ドライエアー発生装置を使用していたところ、同装置内部から出火し、コンプレッサー内のヒューズボックスを焼損したもの。
41	漏えい	31	2	15	愛知県	なし	屋外貯蔵タンクの内部清掃のため、貯蔵している原油を他の屋外貯蔵タンクに移送するために設置した移送配管(仮設)に設けられた圧力計付近から原油が60L程度漏えい。(海、河川への流出はない。)元バルブを閉止して対応。
42	火災	31	2	19	神奈川県	なし	事業場、蒸留工場(可燃性液体の蒸留作業施設)に隣接する精製工場(可燃性液体の脱臭作業)の工事作業に伴い、蒸留作業施設の保有空地内に設置した資機材置場が何らかの原因により火災となったもの。資機材置場を覆っていたビニールシート(防災)、タイベックススーツ等が燃えたもの。関係者により消火済み。同日9:15鎮火。同日9:40処理完了完全鎮火。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
43	火災	31	2	20	三重県	なし	スチレン系樹脂製造施設の定期修理の準備として、内部清掃のため樹脂押出機の配管を外したところ、内部に付着していたスチレン系樹脂が発火したものと推定。消防車両14台が出場し、消火・冷却注水を実施。11時50分鎮火。
44	漏えい	31	2	20	千葉県	なし	屋外タンクの屋根上にナフサが漏洩したもの。タンク内のナフサを他事業所へ移送中。
45	漏えい	31	2	21	千葉県	なし	電解槽に電気を供給する整流器(絶縁油が入っている)の部品交換を行った後、当該部分の気密試験を実施していたところ、整流器内で油の圧力が上昇したときに圧力を逃がすための安全装置が働いて、絶縁油が数十リットル放出した。同日20:40油の処理は完了。
46	漏えい	31	2	23	和歌山県	なし	水添脱硫装置液面計高圧ガス側取り出し配管付近で油漏れを発生。ガス検知器にてガス測定を実施したが、ガスの漏れは検知されなかった。
47	火災	31	2	25	愛媛県	軽傷1名	熱交換器の凝縮器を溶断作業中に設備からメタノール及びエチレングリコールの混合物が噴出、引火し作業員の衣類に着火。なお火はすぐ消えたため消火活動は行っていない(消防の覚知は救急出動依頼による通報によるものとのこと)。作業員1名が二度の熱傷を負った。
48	漏えい	31	2	26	山口県	なし	重油タンク付帯配管の通るトレンチ内に重油が約200リットル溜まっているのを発見。漏えいは既に停止し、トレンチ内に溜まり海上等への流出はなし。
49	火災	31	2	27	三重県	なし	ボイラー用変圧器の解体作業中に、変圧器の絶縁紙に引火したもの。20:30鎮火。
50	漏えい	31	2	27	宮城県	なし	10時25分頃、製油所構内地区(危険物タンクの集中している地区)のタンク附属配管から油(精製処理前の灯油)が地上に漏れいているのを確認したため、直ちに当該配管の上流4カ所のバルブを閉止するとともに消防局へ通報した。10時40分に漏れいは停止した。漏れいした灯油は微量であり、漏れい箇所の下にある地面(砂)(防油堤内)に染みこむ程度であった(灯油漏れい量は調査中)。消防局が入構した10時57分には既に漏れいは止まっていたため、11時29分に指揮権を消防局から製油所側に戻し、12時19分製油所の非対本部及び現地本部を解散した。
51	火災	31	2	28	神奈川県	なし	移送取扱所の配管加温用の電源供給ラインの電気室内の変圧器が焼損したもの。電気は遮断済み。煙はすぐに収まっている。
52	漏えい	31	3	1	山口県	なし	3号棧橋上の配管から油が漏れい。海上へ流出し、2×2m程度の油膜あり(漏れいは停止しているため、オイルフェンスはなし)。漏れい量は場内で10ℓ、海上に4㎡の油膜分、漏れいは発生個所にバンドで固定し停止。海上に漏れいした油膜を回収中。
53	火災	31	3	3	愛知県	なし	天井クレーン用電気室内のケーブル配線が焼損したもの。
54	漏えい	31	3	7	広島県	なし	危険物製造所で製造されたターシャリーブチルメタクリレート(TBMA)を屋外タンク貯蔵所へ送液していたところ、タンク容量を超え、通気管からTBMAが約50ℓ漏れいした。施設外及び海上への漏れいはない。当該タンクは約90%の容量になるとインターロックにより送液を停止する仕組みとなっているが、漏れた時点でDCSではタンク容量約79%を示していたことからインターロックが機能せず、漏れいに至っている。原因は、液面計の差圧伝送器の不具合と思われる。
55	火災	31	3	8	山口県	なし	エンジニアプラスチックプラントのダクトの中で出火。14:05に鎮火。
56	火災	31	3	8	大分県	なし	製鋼工場内に設置しているフレームカッター設備(鉄を切断する設備)において、鉄を切断する際に発生した火花により当該設備の酸素ホースに引火し、約1m焼損した。自衛消防隊により既に鎮火済み。
57	漏えい	31	3	11	福島県	なし	本日10時に、屋外タンク貯蔵所であるタンク(60,200キロリットル)を休止するために、同タンクからTタンク(74,630キロリットル)へ油を移送開始。定期の巡回で、Tタンク側の配管から、C重油約150リットルが防油堤内に漏れいしているのを発見し、バルブ操作により、漏れいは停止。停止時間は15時頃。
58	漏えい	31	3	12	神奈川県	軽傷1名	MMA製造施設内の75mm配管のバルブが破損し、混合物(硫酸・水・高沸点物・メタクリル酸の酸性混合物)の液体が約200リットル漏洩し、漏洩した液体を作業員1名が被り病院へ救急搬送されたもの。漏洩した防油堤内の液体は、吸着マットで処置した。3月12日19:20処理完了を消防確認。
59	火災	31	3	12	福島県	なし	銅の精製作業を行う精製工場において、炉を動作させるモーターへの給電配線から出火し、当該電気配線の被覆及び配線ラックが焼損したもの。22時34分に鎮火した。
60	漏えい	31	3	14	山口県	なし	PE工場において、原料中継槽付近配管よりポリエーテルが約200リットル漏えい。漏れいは停止し、防油堤内に滞留しており外部への流出なし。ウエス等により回収中。
61	火災	31	3	14	千葉県	なし	事業所敷地内、危険物タンク将来設置用地での枯草火災。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
62	漏えい	31	3	19	福島県	なし	3月19日(火)11時58分に当所作業員がタンク内のホルマリン循環作業中、誤って移送バルブを開放し、別タンクに移送されたホルマリンが、タンク屋根部マンホールからオーバーフローし、防液堤に約0.7m漏えいした。作業員がそれに気づき、12時5分に移送バルブを閉止し漏えいは停止した。事業所からの通報を受け、12時51分消防隊が現場に到着した時には、事業所の防災要員による真水で希釈する作業が実施されていた。13時38分に希釈されたホルマリンを全て別タンクに収容し処理完了となった。
63	漏えい	31	3	19	神奈川県	なし	アンモニアプラントのエアコンプレッサーから潤滑油が約20L漏洩し、海上にも若干漏洩したもの。自衛消防隊により警戒筒先1線配備。排水溝への流入については、オイルキャッチャーで吸着するとともにポンプで吸引して処置。海上への漏洩についてはオイルフェンス展張済み。
64	火災	31	3	20	千葉県	調査中	ステンレス工場グラインダー設備にて、何らかの原因で火花が発生し、研削油が燃えたもの。13時05分鎮火
65	漏えい	31	3	21	神奈川県	軽症1名	作業員1名が、施設内で20mm配管フランジ部分の詰まりを除去しようとした際に、ノルマルパラフィン約8リットル漏洩。作業員自らバルブを閉鎖し漏洩を遮断、その後119番通報。負傷者は病院救命センターに搬送。(傷病名:熱傷(軽傷))
66	火災	31	3	22	千葉県	なし	シートの交換時にヒーターに触れ、プラスチックのシートが出火。
67	漏えい	31	3	27	愛知県	なし	フランジ部から硫酸が漏れたが、防液堤内にとどまっている。硫酸貯槽タンク(20m ³)内に12.5m ³ の硫酸が残っているため、残硫酸を中和処理施設に排出する作業が3月28日6時30分に終了。漏れた硫酸は防液堤内にとどまっている。
68	火災	31	3	28	千葉県	軽傷1名	ポンプの気抜き作業中に、ナトリウムと水が混ざり、火災が発生したもの。当該ポンプは高圧ガス設備であるが、発災当時は停止中であり、発災設備及びその近傍の設備に高圧ガスは存在していなかった。人的被害1名(顔面の2/3程度がI度熱傷)
69	火災	31	3	28	神奈川県	なし	仕上工場建屋内の製品(ゴム製品)を加工する抵抗器を若干焼損したもの。従業員に消火され、3月28日22:23鎮火。
70	火災	31	3	29	山口県	なし	セメント燃料のベルトコンベア(2WF破碎設備)で火災発生。セメント製造プラントへ燃料(廃プラスチック)を運搬するベルトコンベア約20m焼損。29日4時26分に鎮火。